

早稲田大学 学位申請論文(博士)の要旨

Dark Triad の統合モデルの提案とその妥当性の検討

概要書

下司 忠大

他者に冷淡で自己中心的な行動傾向を特徴とするパーソナリティ特性はパーソナリティ心理学の分野で「自己愛傾向」、「マキャベリアニズム」、「サイコパシー傾向」として研究されてきた。現在では、これらの3特性はいずれも”Dark”な特徴を有することから、Dark Triadと総称され、Dark Triadに焦点をあてた研究が蓄積されてきている。これら3特性はそれぞれの特性が適応的側面と不適応的側面の相反する側面を有する概念である一方で、その相反する側面が統合されずに研究が進められてきた。ただし、自己愛傾向のモデル化においてはその適応的な側面と不適応的な側面を単一の潜在的な動機づけ次元を想定することで統合するようなモデルが提案されており、その妥当性が確認されている。そこで本論文では、この自己愛傾向のモデルを援用し、Dark Triadの3特性の適応的な側面と不適応的な側面の両側面を統合するようなモデルを提案し、その妥当性を検討することを目的とした。この検討を通して、Dark Triadの統合モデルが提案され、そのモデルの妥当性が部分的に示された。本論文は以下の全十章で構成される。

第一章では、Dark Triadの3特性についてその概念内容が紹介されるとともにその起源および理論的背景が説明され、併せて各概念が適応的側面と不適応的側面の両面を有する概念であることが確認された。具体的には、マキャベリアニズムは自分の利益のために他者を操作する傾向性を指す概念であること、戦略（適応的側面）と世界観（不適応的側面）の2次元で構成されることが確認された。自己愛傾向は自己に対して誇大で尊大な行動をとる傾向性を指す概念であること、自己愛的賞賛（適応的側面）と自己愛的抵抗（不適応的側面）の2次元で構成されることが確認された。併せて、これら2次元を統合する自己愛的賞賛・対抗の概念（Narcissistic Admiration and Rivalry Concept; NARC）のモデルが示され、そのモデルについて説明された。サイコパシー傾向は冷淡かつ社会逸脱的に行動する傾向性を表した概念であること、そして恐怖機能の欠陥（適応的側面）と認知-実行機能の欠陥（不適応的側面）の2次元で構成されることが確認された。

第二章では、Dark Triad の概念の起源、およびその概念的変遷について紹介された。Dark Triad の 3 特性はそれぞれが冷淡で他者操作的な特徴を有し、類似した概念であるために、それぞれの等質性および異質性が問題とされた。そして、その等質性・異質性を検討する中で”Dark Triad”と総称され、さらに Dark Triad が単一の構成概念なのか、それとも多次元的な構成概念なのかについての概念的論争が生じた。本章では以上の変遷が詳細に示され、現在では Dark Triad は「オーバーラップしつつも、それぞれ独自の特徴を有する特性のまとまり」として少なくとも理論的にはコンセンサスを得ていることや、そのオーバーラップが「冷淡さ」を表していること、独自の特徴としては時間的志向性と自我同一性希求の次元から理解される可能性が指摘された。

第三章では、Dark Triad の現在までの研究動向が確認された。具体的には第 1 節：尺度、第 2 節：パーソナリティ、第 3 節：社会情緒的機能、第 4 節：対人行動、第 5 節：反社会的行動、第 6 節：内的適応性、についてそれぞれの研究知見が紹介された。このような検討を通して、第二章で論じられた Dark Triad の共通点・相違点についての実証的根拠が確認された。

第四章では、Dark Triad の共通点・相違点、および適応的側面・不適応的側面を統合するようなモデル (Dark Triad の統合モデル) を提案し、先行研究との整合性を確認した。このモデルは潜在的な動機づけダイナミクス、行動的ダイナミクス、社会関係的帰結に至る NARC のモデルをマキャベリアニズムやサイコパシー傾向にまで拡張した新たな Dark Triad のモデルであり、共通基盤として冷淡さ・非共感性を配置し、自己愛傾向については NARC (Back et al., 2018) を布置した。マキャベリアニズムやサイコパシー傾向については、新たに NARC に対応する形でモデルが構成された。本章の検討を通して Dark Triad の統合モデルの整合性が確認されるとともに、先行研究では統合モデルにおける行動的側面が比較的検討されていないことが確認された。

第五章では、Dark Triad の統合モデルの妥当性を確認する上で先行研究において未検討であった側面を示し、本研究全体の問題意識および目的を提示

した。具体的には、「他者操作方略」「対人葛藤方略」「攻撃性」「ゴミのポイ捨て行動」「ライフスキル」「コーピングスタイル」「Dark Triad の測定尺度」の節にそれぞれ分けて論じ、問題点を提示した。その上で、本研究では Dark Triad の統合モデルにおける行動的側面（対人方略，反社会性，社会適応性）の妥当性を検討することを全体の目的とした。

第六章では，Jones & Paulhus (2014) によって作成された Dark Triad を簡便に測定する尺度である Short Dark Triad を日本語に翻訳し，その因子構造の検討を行うとともに（研究 1），SD3-J の信頼性と妥当性の検討を行った（研究 2）。信頼性については α 係数を用いて，妥当性については性差および基準尺度との関連に基づき，併存的妥当性・弁別的妥当性・増分妥当性の観点から検討を行った。本研究の結果から SD3-J が原版と同様の因子構造を有し，また，十分な信頼性を示した。妥当性についてはいくつかの検討課題が残されたものの，概ね許容範囲の妥当性が示された。

第七章では，Dark Triad の対人方略について，他者操作方略（研究 3）と対人葛藤方略（研究 4）の観点から検討を行った。研究 3 では，寺島・小玉（2004）の枠組みを用いて，Dark Triad と他者操作方略との関連が検討され，マキャベリアニズムやサイコパシー傾向がそれぞれ自己優越的行動操作，自己卑下的行動操作と独自に正に関連することが示された。また，Dark Triad の 3 特性はいずれも自己優越的感情操作と独自に正の関連を示し，マキャベリアニズムのみが自己卑下的感情操作と正の関連を示した。研究 4 では，Dark Triad と加藤（2003）の対人葛藤方略モデルとの関連を検討し，マキャベリアニズムは相互妥協スタイルと有意な正の関連を示し，自己愛傾向およびサイコパシー傾向は強制スタイルと有意な正の関連を示した。また，自己愛傾向は回避スタイルとも有意な負の関連を示し，サイコパシー傾向は統合スタイル，回避スタイル，自己譲歩スタイル，相互妥協スタイルとの間にも有意な負の関連を示した。以上の結果は統合モデルを支持するものであった。

第八章では、Dark Triad の反社会性について、外顕性・関係性攻撃（研究 5）、ゴミのポイ捨て行動（研究 6）の観点から検討を行った。研究 5 では、Dark Triad と外顕性・関係性攻撃との関連を検討し、マキャベリアニズムは関係性攻撃と有意な正の関連、サイコパシー傾向は外顕性攻撃および関係性攻撃と有意な正の関連を示した。また、自己愛傾向はいずれの攻撃性ともほとんど関連を示さなかった。研究 6 では、Dark Triad とゴミのポイ捨て行動との関連を検討し、自己愛傾向とサイコパシー傾向がゴミのポイ捨て行動と関連することが示唆された。以上の結果は部分的にモデルを支持しない結果もあるものの、全体としては統合モデルを支持する結果であった。

第九章では、Dark Triad の社会適応性について、ライフスキル（研究 7）、コーピングスタイル（研究 8）の観点から検討を行った。研究 7 では、Dark Triad とライフスキルとの関連を検討し、マキャベリアニズムは意思決定、対人関係スキルと正の関連を示し、自己愛傾向は対人関係スキル、効果的コミュニケーション、情動への対処と正の関連を示した。サイコパシー傾向は意思決定、対人関係スキル、情動への対処と負の関連を示した。研究 8 では、Dark Triad のコーピングスタイルとの関連を検討し、マキャベリアニズムは積極的対処や降伏的態度と正の関連を示し、自己愛傾向は積極的態度と正の関連、降伏的態度と負の関連を示した。また、サイコパシー傾向は積極的対処やサポート利用と負の関連を示し、現実回避や降伏的態度と負の関連を示した。以上の結果は統合モデルを支持するものであった。

第十章では、本論文で提案された Dark Triad の統合モデルについて総括的な討論が行われた。第 1 節では、統合モデルの行動的側面について、研究 1 から 8 までの結果に基づいてその妥当性が確認された。第 2 節では Dark Triad の統合モデルの意義について、これまでの Dark Triad 研究の現状や理論的背景に対する影響に焦点をあてて討論された。第 3 節では、Dark Triad の統合モデルの妥当性について、本研究の限界と今後の展望が論じられた。